**地区運営方針：「持続可能なインパクトの創造」**

**クラブ会長方針：「未来のための原点回帰」～ Going back to basics for the future ～**


国際ロータリー第2790地区 第３グループ

# 千葉西ロータリークラブ

Rotary Club of Chiba-West

# WEEKLY COMMUNICATION



創　立　1976年1月20日　　承　認　1976年2月25日
会　長　白井貴博　　幹　事　真野匡章
例会場　京成ホテル ミラマーレ
〒260-0014 千葉市中央区本千葉町15-1
TEL 043-222-2111
例会日　毎週火曜日 12:30～
事務局　〒260-0001 千葉市中央区都町1-2-3
TEL 090-3484-2790
E-mail：chibawestrc@wrpc.co.jp
URL：https://www.chibawest-rc.net/


## ■ 会長挨拶 / 白井貴博 会長



皆様、こんにちは。

本日は、米山奨学学友委員会主催によるクラブフォーラムでございます。本日の卓話には、米山奨学生のカルパハナ シャヌカ ササン様をお迎えしております。ササン様、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

当クラブにおきましても、コロナ禍前までは米山奨学生を受け入れておりました。当時カウンセラーを務められた皆様のご苦労も大変なものであったかと存じますが、奨学生が参加してくれることでクラブ全体が活性化し、例会にも朗らかな雰囲気が生まれていたことが大変印象に残っております。

今年の 2 月に受入れのご依頼をいただいた際には、野口委員長とも相談のうえ、一度は前向きに受入れを検討いたしました。しかしながら、3 月に控えておりました創立 50 周年事業の準備等と重なっていたこともあり、やむなく断念したという経緯がございました。また、来年2月頃に受入れの依頼が届くものと思われますので、次年度におきましてはぜひ前向きにご検討をいただければ幸いです。

さて、話を少し変えさせていただきますが、本日の例会は 9 月 15 日の夜例会以来、3週間ぶりの開催となります。また 10 月は、本日の通常例会を終えますと地区大会を挟み、27 日の「会員増強オープン例会」まで例会はございません。

9 月 15 日に行われました会員増強退会防止委員会のクラブフォーラムにおきまして、「例会数をさらに減らすべきか否か」について討論がなされました。現状の年間 36 回という例会数をさらに減らすことが、果たして私たちが目指す「楽しいクラブ」作りにつながるのだろうか――この 2 週間、私も少し考えておりました。

本日も 10 月の寄付金集める手続きを第 1 例会で行わざるを得ない状況であったり、委員会を開催したくても例会後に時間が取れず日程調整に苦慮したり、また LINE で出欠等の確認は取れても直接お会いしてお願いができないなど、クラブ運営上の支障も少しずつ出てきているのが実情でございます。

2 月の臨時総会におきまして、年間例会数を 40 回から 35 回（今年度は 36 回）へと減らす決議がなされました。これは私自身から提案させていただいた議案であり、当時の予算上の課題等を踏まえた判断でございました。中には「年間 30 回程度まで減らしても良いのではないか」というお声もございました。

しかしながら、ここからさらに例会数が減っていきますと、次第に例会へ足を運ぶこと自体が億劫になり、クラブの出席率低下にもつながりかねないという懸念がございます。例会数を減らすことによるメリットも勿論ございますが、親睦や対話といったロータリークラブの根本にある大切なものが少しずつ失われてしまうのではないか、と危機感も覚えております。

こうした例会のあり方やクラブの未来につきましては、11 月に予定されております炉辺会談の場におきまして、皆様と忌憚のない意見交換をさせていただきたいと考えております。

以上をもちまして、本日の会長挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

## ■ 四つのテスト / 足立啓輔 会員



「言行はこれに照らしてから」
- 真実かどうか
- みんなに公平か
- 好意と友情を深めるか
- みんなの為になるかどうか

## ■ お客様

・カルパハナ・シャヌカ・ササン くん（米山奨学生）
・髙山公子 様（第 12 グループガバナー補佐）
・遠藤陽介 様（地区米山記念奨学委員）
・榎本智恵 様（四街道 RC）



## ■ 幹事報告



定例理事会を開催しました。議案については全て、全会一致で承認されました。
≪議題≫12 月・1 月・2 月プログラムの件 / インターアクト国外研修の件 / ふれあい花壇植え替えの件 / 炉辺会談の件 / 退会会員の件（小池会員異動のため）/ 会員手帳作成の件
合同幹事会にて、会員増強オープン例会について他クラブへお知らせしました。また第 3 第 4 グループ合同ラーニングセミナーが開催されます。ご参加をお願いいたします。

## ■ 委員会報告

ロータリー財団委員会



・9 月 26 日に開催されたロータリー財団セミナーにて「第 1 回仲間と紡ぐ子どもたちの夢～ジョイントコンサート」事業報告を、長坂委員長と森川さんで行いました。事業のことがよくわかる素晴らしい資料をお送りしています。ぜひご覧ください。
・本年度のジョイント活動（学校訪問）がスタートしております。練習見学の参加と事業所等へポスターとチラシの配布をお願いします。アンケートで枚数希望を募っています。千葉市民会館は 1,000 席あり動員が必要となります。
・11 月は財団月間です。当委員会の担当例会となります。時田 PG をお迎えして卓話を伺います。卓上のアンケートへご記入をして提出をお願いします。学びの例会にしたいと思います。ご協力をよろしくお願いします。

社会奉仕委員会



・千葉いのちの電話チャリティコンサート「トワエモワコンサート」11 月 28 日（土）千葉市民会館へ奮ってご参加ください。チケットはまだございます。
協賛広告は本日で締め切ります。今からでも間に合いますので宜しくお願いします。
・JR 稲毛駅前ふれあい花壇の植え替えが 11 月 7 日（土）9:30 ～に変更となりました。小雨決行、中止の場合は 8：00 頃に連絡します。ご協力をお願いします。
・赤い羽根共同募金のお願いです。羽ではなくグッズ販売（バッジ、バッグ）でのご協力をお願いしています。こちらはまだ受け付けますのでどうぞよろしくお願いします。

花倶楽部
生け花会を 11 月 10 日（火）、12 月 15 日（火）例会終了後に開催します。ご参加をお待ちしております。

## ■ クラブフォーラム　ロータリー米山記念奨学生卓話



皆様、こんにちは。
私の名前はカルパハナ・シャヌカ・ササンです。27 歳で、現在、千葉商科大学商経学部の 3 年生です。私は日本で生まれ、スリランカで育ちました。性格タイプは ENTJ-A です。
まず、私の趣味について少し紹介します。私は好奇心が多いタイプで、趣味もかなり多いです。一つ目は登山です。これまで富士山や中白峰山などに登りました。音楽も好きで、特にレコードを集めたり、カラオケに行ったりします。また、チェスも趣味で、オンラインのレーティングは 1250 くらいです。そして、少し変わった趣味かもしれませんが、政治、歴史、文化などについて自分で調べることも好きです。ほかにも、ナイトドライブ、園芸、絵を描くこと、料理、映画など、興味を持ったことにはとりあえず挑戦する性格です。
次に、日本でのアルバイトについてお話しします。
私は朝日新聞奨学生制度を利用して日本に来たため、日本での最初の仕事は新聞配達でした。マンションを中心に、毎日約 700 部の新聞を配達していました。新聞配達そのものも大変でしたが、それ以上に大変だったのが職場環境でした。
当時の職場では、パワーハラスメントやセクシュアルハラスメントなどの問題がありました。奨学生の多くは留学生で、特に女性の学生も多く、日本語がまだ十分に話せない人もいました。そのため、自分の意見をうまく伝えることができず、在留資格や帰国のことを持ち出されると、怖くて何も言えなくなってしまう学生もいました。私はそうした学生たちをできるだけ守るために間に入り、日本語学校や新聞販売店と話し合いや交渉をするようになりました。この生活を約 2 年間続けました。当時は仕事と学校の両立で、毎日 3 ～ 4 時間程度しか眠れない生活が続いていました。
しかし、この経験を通して、同じような問題を抱えている留学生が、自分の周りだけではなく、たくさんいることに気づきました。言葉の問題や日本の制度が分からないために、困っていても誰にも相談できない留学生がいます。それをきっかけに、私は自分の周りの留学生の相談に乗ったり、困っている人を手伝ったりするようになりました。
大学に入学してからは新聞配達を辞め、ローソンで働き始めました。ローソンでは仕事を一つずつ覚え、できることを増やしていき、最終的には店舗の中で最も多くの認定を持つスタッフになりました。一時期は店舗全体の管理にも関わっていましたが、その後は仕事の量を減らし、現在は主にお酒の担当をしています。

そして、ロータリー米山記念奨学金をいただいたことで、ローソンでのアルバイトの時間をさらに減らすことができました。その時間を活用して、現在は大学の International Square でも働き、日本人学生に英語を教えています。
私にとって米山奨学金の大きな意味の一つは、経済的な支援だけではなく、アルバイトに使っていた時間を、自分の成長や、人のために使える時間に変えることができたことです。

2. スリランカについて
ここからは、私の母国であるスリランカについて紹介したいと思います。スリランカは、インドの南に位置する島国です。人口は約2,178万人で、日本からは飛行機で約10時間かかります。首都はスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテです。そして、スリランカ最大の都市であり、経済の中心となっているのがコロンボです。
言語
スリランカで主に使われている言語は、シンハラ語とタミル語です。シンハラ語はスリランカで最も広く使われている言語で、私も普段シンハラ語を使っています。一方、タミル語は特にスリランカの北部や東部で多く使われています。

3. スリランカの食文化
スリランカ人が大好きなものの一つが、食べることです。そして、スリランカでは料理をする人も多く、家庭でもいろいろな料理を作ります。まず、朝食です。エッグホッパーは米粉とココナッツミルクなどで作った生地を、お椀のような形に薄く焼き、その中に卵を入れます。そして、ストリングホッパーは、米粉から作る細い麺のような食べ物で、日本のそうめんにも少し似ています。一般的には、ココナッツサンボルやポテトカレーなどと一緒に食べます。
次は昼食です。スリランカには 200 種類以上ともいわれるさまざまなカレーがあります。
一般的な家庭でも、毎日３～５種類ほどのカレーを作ります。そしてレストランでは、10 種類以上のカレーが並んでいることも珍しくありません。
インドカレーとスリランカカレーには、いくつか違いがあります。まず、使うスパイスの種類や組み合わせが違います。そして、スリランカのカレーでは、材料やスパイスをすべて完全に混ぜ合わせない料理も多いです。そのため、同じ一皿のカレーでも、一口ごとに少しずつ違う味や香りを楽しむことができます。私が特に好きなのは、ジャックフルーツカレーとイノシシカレーです。そして夕食には、コットゥ、ビリヤニ、ココナッツロティなどをよく食べます。コットゥは、パラタのようなロティを細かく刻み、野菜、卵、肉などと一緒に鉄板の上で炒めて作る料理です。

4. スリランカと日本の友好関係
第二次世界大戦中の 1942 年、当時セイロンと呼ばれていたスリランカは、日本軍の攻撃を受けました。そして、1951年のサンフランシスコ講和会議で、当時セイロン代表だった J・R・ジャヤワルダナ氏は、日本に対する賠償請求権を放棄することを表明しました。さらに、日本を国際社会の一員として受け入れるよう、各国に呼びかけました。その演説の中で、ジャヤワルダナ氏は仏教の『法句経』の言葉を引用しました。「憎しみは憎しみによって止むことはなく、慈愛によって止む。」この言葉は、戦争の後に「復讐するのではなく、相手を許す」という考えを表したものでした。そして、スライドにあるジャヤワルダナ氏の顕彰碑は、神奈川県鎌倉市の高徳院、鎌倉大仏の境内にあります。この出来事は、現在まで続く日本とスリランカの友好関係を象徴する出来事の一つとして、両国で語り継がれています。

5. 日本を知るきっかけになった「おしん」
スリランカでは、日本のドラマやアニメも昔から親しまれてきました。その代表的な作品の一つが、「おしん」です。「おしん」は、貧しい家庭に生まれた女性が、さまざまな苦難を乗り越えながら懸命に生きていく姿を描いた日本のドラマです。スリランカでも「おしん」はとても知られていて、このドラマを通して日本を知った人もたくさんいます。
特に、家族を大切にすること、困難に負けない強さ、そして勤勉に努力することなどは、スリランカ人にとっても共感しやすい価値観だったと思います。私にとっても、日本という国を身近に感じるきっかけの一つになった作品です。

6. スリランカで愛された「アンパンマン」
スリランカでは、アンパンマンが朝 5 時ごろにテレビで放送されていました。かなり早い時間ですよね。でも、アンパンマンを見るために朝早く起きて、そのまま学校に行く子どもたちも多くいました。このように、日本とスリランカの関係は、先ほど紹介したような歴史的なつながりだけではなく、テレビドラマやアニメなどを通して、私たちの日常生活の中にも存在していました。そして、日本について知れば知るほど、日本とスリランカには意外と似ているところが多いと感じるようになりました。

7. 日本とスリランカの意外な共通点
まず、両国とも礼儀や挨拶を大切にする文化があります。そして、家族を大切にすることや、お年寄りを敬うことも共通しています。食文化にも似ているところがあります。どちらの国もお米を中心とした食文化があり、漬物のように食べ物を保存して食べる文化もあります。そして、私が日本語を勉強し始めて面白いと思ったのが、日本語とシンハラ語の文法が似ていることです。そして、もう一つの共通点が、自然を大切にする文化です。

8. 私が日本に来たきっかけ
日本に興味を持った理由の一つが、伝統と技術が共存しているところです。日本には長い歴史や伝統的な文化がある一方で、世界的に知られている技術もあります。そして、都市だけではなく、山や森林などの豊かな自然が残っているところにも魅力を感じました。
そして、日本は安全な国であることです。また、「侘び寂び」や「もったいない」という日本独特の考え方にも興味を持ちました。そして、私が日本に興味を持った大きな理由の一つが、音楽とアニメです。音楽では、特にヴィジュアル系やＪロックが好きでした。もう一つ、日本を身近に感じた理由が仏教文化です。

9. 大学で学んでいること
私が千葉商科大学に入学した当初の目標は、中小企業診断士になることでした。そのため、中小企業や経営について専門的に学べる千葉商科大学を選びました。しかし、大学に入って先生方から中小企業診断士について学び、実際にさまざまな中小企業診断士の方々と出会う中で、少しずつ考え方が変わっていきました。私が感じたのは、中小企業診断士の資格を取るだけでは十分ではなく、それに加えて自分の専門分野を持つことが大切だということです。そして、私が出会った中小企業診断士の方々の多くが、IT を自分の専門分野として活用していました。そこで私は、これからの企業経営を考える上で、IT は非常に重要なスキルになると考えるようになりました。それをきっかけに、大学 2 年生の秋学期ごろから、自分の進路を大きく変え、サイバーセキュリティを専門的に学ぶことを決めました。それからは、大学の授業だけではなく、自分でもサイバーセキュリティについて勉強を続け、認定資格も取得することができました。また、この夏には、日本の IT 企業で長期インターンシップにも参加し、実際の IT 業界について学ぶ経験もしました。
では、なぜ IT の中でもサイバーセキュリティを選んだのか。その理由の一つは、日本でもスリランカでも、大規模なサイバー攻撃が発生していることです。サイバー攻撃は、一つの国だけの問題ではありません。だからこそ、私が日本で身につけた IT やセキュリティの知識と経験は、将来、日本だけではなく、スリランカでも活かすことができると考えています。そして現在、私が目指しているのは、楽天でインフラエンジニアとして働くことです。
将来は日本とスリランカの両方に役立てられるエンジニアになることが私の目標です。

10. 今までの活動
まず、大学では留学生運営会の副会長を務めました。留学生運営会では、日本人学生と留学生がお互いの文化を理解し、交流できるように、さまざまな交流イベントの企画や運営を行ってきました。また、留学生アドバイザーとしても活動しています。先ほど新聞奨学生時代の話でも少し触れましたが、私は日本に来てから、言葉や文化、制度の違いによって困っている留学生をたくさん見てきました。その経験もあり、大学に入ってからも、困っている留学生がいれば、できるだけ相談に乗ったり、サポートしたりするようにしています。
次に、大学の学長ゼミを通して、GPAC というアジア学生国際交流プログラムにも参加しました。この活動では、私自身が異文化について学ぶだけではなく、日本人学生に異文化を理解してもらうことも、自分の役割の一つだと考えていました。例えば、昨年は GPAC で台湾に行きました。そのとき、日本人学生の中には、「お腹を壊すかもしれないから」と心配して、台湾に来ているのに、日本食ばかり食べて現地の料理をあまり食べようとしない学生もいました。私はそれを見て、せっかく海外に来たのであれば、食べ物も含めて、まずはその国の文化を自分で体験してみることが大切ではないかと話しました。また、一緒に活動していく中で、日本人学生と、日本で生活している留学生について話す機会もたくさんありました。
相談内容は学業だけではなく、実は日本社会の中で感じる人間関係の悩みがとても多いです。例えば、周りに合わせなければならないという社会的なプレッシャーや、本音と建前を使い分ける建前文化によって、「友達はいるけれど、本当のことを話せる友達がいない」と感じている学生もいます。また、日本では、政治・宗教・お金・性など、親しい関係であっても話しにくいとされる話題があります。
もちろん人によって違いますが、学生から相談を受けていると、「話したいことがあっても、誰にどこまで話していいのか分からない」というストレスを抱えている人がいることに気づきました。
そして、私が特に気になったのが、親子のコミュニケーションです。親と子どもの間で、自分の悩みや将来について十分に話すことができず、困ったときに家族からアドバイスをもらえない学生もいました。友達にも話せない。親にも話せない。そうすると、「では、この学生は誰に相談すればいいのだろう」と思いました。私は専門のカウンセラーではありません。だから、問題をすべて解決してあげることはできませんが、まずは相手の話を否定せずに聞いて、一緒に考えることを大切にしています。そうしているうちに、学生だけではなく、時々スタッフからも相談されるようになりました。
そして、いつの間にか大学では、「神様」というあだ名まで付けられてしまいました。でも私にとって大切なのは、何か特別な答えを持っていることではなく、「困ったときに、この人なら話してもいい」と思ってもらえる存在になることだと思っています。

11. 課外活動
私は市川市で、里山保全のボランティア活動に参加しています。
そして、もう一つ続けているのが、留学生の引っ越しの手伝いです。日本に来たばかりの留学生にとって、引っ越しは意外と大変です。車を持っていなかったり、日本語が十分に話せなかったり、引っ越し業者を頼むと費用が高かったりします。

そこで、日本語学校や専門学校に通っている留学生を中心に、関東地方で引っ越しを手伝っています。お金を稼ぐためにやっているわけではないので、基本的には燃料費だけをもらっています。これまでに手伝った引っ越しは、8 回になりました。

12. 私の奉仕への思い

その考え方の原点の一つは、私が育ったスリランカの仏教文化にあります。私は子どもの頃から、困っている人がいたら助ける、食べ物や持っているものを分け合う、そして見返りを求めないという「分かち合う心」の中で育ちました。そのため私にとって、人を助けることは、最初から特別な「ボランティア活動」という感覚ではありませんでした。
自分にできることがあって、目の前に困っている人がいるなら、それをする。それが私にとって自然な考え方でした。
しかし、日本に来てから、もう一つの「奉仕」の考え方を持つようになりました。
そのきっかけの一つが、私が好きな作品の『グレート・ティーチャー・オニヅカ』です。
GTO を見て感じたのは、人を助けるということは、物をあげたり、何かを代わりにやってあげたりすることだけではないということです。
その人の悩みに向き合い、自分で前に進めるようになるきっかけを与えることも、一つの奉仕ではないかと思うようになりました。これは、先ほどお話しした学生からの相談にもつながっています。私は学生の問題を代わりにすべて解決することはできません。
でも、話を聞いて、違う考え方を伝えたり、一緒に考えたりすることで、その人が自分で次の一歩を踏み出すきっかけを作ることはできます。
そして、いつか本当に、「Great Teacher ササン」と呼ばれるような人になれたらと思っています。

13. 将来の夢

私は将来、スリランカの教育問題の改善に貢献したいと考えています。スリランカでは、教育資源の不足によって、地域によって教育の質に差があります。
そして、もう一つ大きな問題が、キャリアガイダンスの不足です。そのため、若い人たちが、「何を学べば、将来どんな仕事につながるのか」を知る機会が十分ではありません。将来は、日本で得た知識や経験を活かして、スリランカの若い世代が自分の将来の選択肢を見つけられるような環境を作りたいと考えています。

14. ロータリーと私

私は大学から、「あなたが今までやってきた活動は、米山記念奨学会の理念に合っている」ということで、この奨学金を紹介していただきました。そして、米山奨学生になってから、私の生活は本当に大きく変わりました。
まず、私には日本で新しい家族と、二人のお父さんができました。それが、遠藤さんと田代さんです。遠藤さんは、私だけではなく、他の留学生の相談にもいつも親身になって乗ってくださる方です。そして田代さんは、私にとって「日本のお父さん」のような存在です。日本の文化や社会についていろいろなことを教えてくださり、飲み会にもよく誘ってくださいます。そして、これはぜひ言わせてください。
八千代中央ロータリークラブは、私にとって一番のロータリークラブです。
留学生にとって、ロータリー米山奨学金の素晴らしいところは、奨学金をいただくだけではなく、実際の日本社会でさまざまな世代や職業の方々と話し、学ぶことができる環境があることだと思います。
また、奨学金のおかげでアルバイトの時間を減らすことができ、勉強やボランティア活動に使える時間も増えました。さらに、米山を通して、さまざまな国から来た優秀な留学生の仲間とも出会うことができました。彼らから刺激を受けることも多く、この出会いは私自身の成長にも大きくつながっています。
今では、できる限りロータリーのイベントに参加していますし、これからは他のロータリークラブの活動にも参加して、もっと多くの方々と交流したいと思っています。私は、お互いの文化を理解するために一番大切なのは、コミュニケーションだと思っています。
実際に会って、話して、お互いを知る。そうやって少しずつ理解を深めていくことが、最終的には平和につながっていくのではないかと思います。

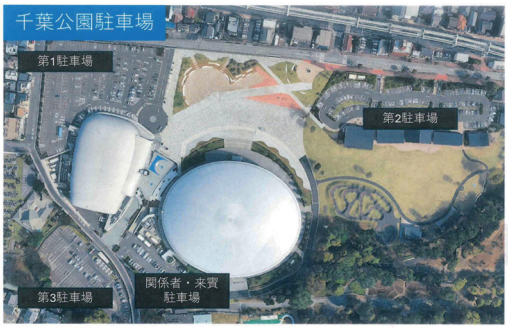


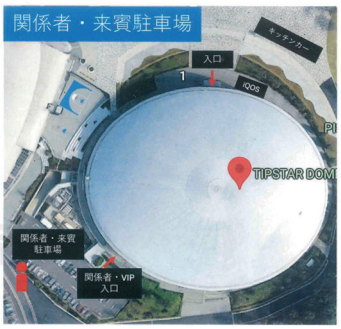
■ 地区大会【2日目】2026年10月18日（日）　会場：千葉JPFドーム（旧：チップスタードーム）

【本会議２日目】

9:00　登録開始
10:00　オープニングセレモニー
10:40　ロータリー紹介（映像）
10:42　四宮 RI 理事・ご婦人
10:44　点鐘
　　国歌斉唱「君が代」
　　ロータリーソング「奉仕の理想」斉唱
10:49　物故会員追悼（映像）
10:52　開会の言葉・歓迎の言葉
　　RI理事　四宮孝郎様　紹介
　　来賓紹介及びパストガバナー紹介
　　ガバナー挨拶
11:13　RI会長メッセージ（映像）
11:15　千葉県副知事ご祝辞
　　千葉市長ご祝辞
11:25　ロータリーファミリー紹介（登壇）
11:55　諸事お知らせ
昼　　食
　　千葉経済大学附属高等学校　吹奏楽部演奏 and バトントワラーズ部演舞（12:15～12:45）
13:00　地区大会決議発表・選挙管理委員会報告
13:10　基調講演　千葉大学学長　横手幸太郎先生　講演
　　テーマ：『知の力で社会に貢献する ―医療・経営・人づくりが拓く未来―』
　　謝辞
14:35　個人表彰
14:50　寄付贈呈　ロータリー財団、米山記念奨学会、希望の風
14:55　直前ガバナーに記念品贈呈
　　ガバナーエレクト挨拶・ガバナーノミニー挨拶
15:10　2026-2028 年度RI理事講評・記念品贈呈
15:26　次期地区大会ホストクラブ会長挨拶
15:29　米山梅吉記念館 PR
15:34　国際大会 PR
15:37　閉会の言葉
15:40　点鐘
休　　憩
【イベントタイム】
15:55　競輪選手デモレース
16:30　グループ対抗スポーツ車椅子レース
【大懇親会】
17:15　開会の言葉
　　ガバナー挨拶
　　乾杯　1970～90 年代ディスコ曲、ダイアナガーネット
18:30　閉会の言葉

## 駐車場




《駐車台数》

| | | |
|---|---|---|
| 関係者・来賓駐車場 | 35台 | （予備5台、計40台） |
| 公園第１駐車場 | 300台 | ※一般利用有（クラブバスは第１駐車場のみ） |
| 公園台２駐車場 | 144台 | ※一般利用有 |
| 公園第３駐車場 | 150台 | ※一般利用有 |




■ ニコニコ BOX

・髙山公子 様（八千代中央 RC）…本日ササンさんの卓話よろしくお願いいたします
・遠藤陽介 様（地区米山奨学委員 / 八千代中央 RC）…本日は米山奨学生ササンさんの卓話をご用意頂き誠にありがとうございます。また、日頃から米山へのご理解とご協力を頂いていますことを重ねてお礼申し上げます。
・榎本智恵 様（四街道 RC）…本日はよろしくお願いいたします
・海寶…高山ガバナー補佐、榎本さん、遠藤さんのご来会を歓迎します
・桜井…阪神タイガース２連覇おめでとうございます
・佐藤…いのちの電話のチャリティコンサート、ふれあい花壇、赤い羽根募金にご協力お願いいたします。

| 千葉西ロータリークラブ | 総数 | 本日の出欠 | 出席 | 前々回の修正 | メーキャップ | 本日の出席率 | ニコニコBOX | 本日の合計 | 次週プログラム |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 44名 | | 26名 | | -名 | 68.42% | | 14,000円 | ■次週プログラム<br>10月13日（火）定款により休会<br>10月20日（火）→18日（日）<br>登録開始　9:00<br>オープニング 10:00<br>地区大会へ振替　JPFドーム |
| | 対象者 | | 欠席 | | 欠席 | 前々回の出席率 | | 本年度累計 | |
| | 38名 | | 12名 | | -名 | -% | | 300,000円 | |

クラブ広報・ロータリー情報委員会　【委員長】前野拓郎【副委員長】川﨑美嘉子【委員】石倉章伸・*海寶勘一・*足立啓輔・*佐藤善一

※ 千葉西ロータリークラブ WEEKLY COMMUNICATIONは SNSやWebに掲載されます